

「人恋しい歳頃に」

高校 16 期 針山日出夫(三菱原子燃料株式会社副社長)

人は誰もがそれぞれに深い思いを持って人生を送っています。「過去」という抽出しから特別に保存されている「追憶」というファイルを感慨を込めて引き出したり、「未来」という抽出しをそっと引いて「余生」というファイルに祈りを込めて希望を書き込んだりもします。



私は、この1~2年「同窓」という抽出しを開けたくてたまらない静かで穏やかな衝動にとり憑かれています。これまで59年間の人生の大半を原子力発電というエネルギー確保の仕事をそれなりにやってきて、志を遂げきった訳ではありませんが一定の達成感や自己満足を感じるようになり心にゆとりが出てきたこともあるのでしょうか、昔の仲間に出会ってみたいとの人恋しい思いが溪谷の湧水のように湧いています。

この春は、47年振りに富山の漁村の小学校の同窓会に出て恩師との再会を果たし、我が人生の心のルーツの確認と、肩を組んで遊んだ幼い頃の仲間の体温を感じて帰りました。

秋には41年振りに八尾高の同窓3人で心斎橋のレストランで夕食を共にし、これからの自己実現に向けての強い意欲を交換でき爽やかな高揚感に包まれました。又、つい最近では、卒業以来初めての37年振りの大学専攻学部の同窓会をやり、原子力推進に対する逆風と戦ってきた経験を語り合い、これまでの人生を噛みしめながら共感の輪を広げ心のエネルギーを増大することができました。

還暦を直前にして、仲間達と会えるなら時間やコストに躊躇しない人恋しい歳頃を楽しんでいる今日この頃です。